

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	プロッサムジュニア北上教室
------	---------------

公表日 2026年3月10日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境 ・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	・メンバーによって少し狭い。	限られたスペースを有効活用するため、家具の配置を見直すとともに、「どこに何を片付けるか」を視覚的に分かりやすく表示（構造化）子供たちが主体的に片付けに取り始める時間をプログラムに組み込み、習慣化を図ります
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7		基本的な人数は足りているが、子供が1職員に集中している場合があり負担になっているのではないかと感じる時がある。職員同士協力し分散させたり、もう一人職員がつく等配慮が必要な場面もある。	支援終了後の当日中の振り返り（ミーティング）を短時間でも確実に実行し体制を整え、その日の気づきやヒヤリハットを即時に共有します また、朝礼等での事前共有を徹底し、急な変更が生じた際も全職員へ迅速に伝達できる連絡フローを構築することで、特定の職員に負担が偏らないようチーム全体で柔軟に動く体制を目指します
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	・整理整頓△職員によって片付けの基準が異なっていることも要因だと思う。朝職員が片づけるのではなく子供たちだけでも片づけられる仕組みが必要。	限られたスペースを有効活用するため、家具の配置を見直すとともに、「どこに何を片付けるか」を視覚的に分かりやすく表示（構造化）子供たちが主体的に片付けに取り始める時間をプログラムに組み込み、習慣化を図ります
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	3	・遊び終わった後の片付けが出来ていない時ややってそのまま帰る時がある。	限られたスペースを有効活用するため、家具の配置を見直すとともに、「どこに何を片付けるか」を視覚的に分かりやすく表示（構造化）子供たちが主体的に片付けに取り始める時間をプログラムに組み込み、習慣化を図ります
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	・大部屋になるが高学年のみで利用し、低学年が使用しづらい環境の時がある。 ・	年齢や発達段階に応じた部屋の使用ルールや時間割を明確にし、全児童が公平に空間を利用できるよう調整します 活動では、パソコン学習などの継続的な取り組みを活かしつつ、高学年に対しては将来の自立や就労を意図した実践的なワークショップや体験型プログラムを新たに導入し、年間計画のマンネリ化を防止します
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	3		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・職員間の意見ややり取りは出来ていない人もおりこちらもどう動いていいかわからない。	支援終了後の当日中の振り返り（ミーティング）を短時間でも確実に実行し体制を整え、その日の気づきやヒヤリハットを即時に共有します また、朝礼等での事前共有を徹底し、急な変更が生じた際も全職員へ迅速に伝達できる連絡フローを構築することで、特定の職員に負担が偏らないようチーム全体で柔軟に動く体制を目指します
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1		
適切 な 支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	2	・木曜日には継続してパソコンに取り組んでいる。 ・大きい利用者の難しさはあるが就労や将来を意識させる取り組みもできたらと思う。	年齢や発達段階に応じた部屋の使用ルールや時間割を明確にし、全児童が公平に空間を利用できるよう調整します 。活動面では、パソコン学習などの継続的な取り組みを活かしつつ、高学年に対しては将来の自立や就労を意識した実践的なワークショップや体験型プログラムを新たに導入し、年間計画のマンネリ化を防止します
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	5	・次の日の朝礼にて保護者からのお話やヒヤリハット、気になること等を共有してはいる。事前に朝礼等で共有し変更があった場合も確認の連絡があると安心して対応できる。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	2		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3		地域の児童発達支援センターや児童館、近隣の放課後児童クラブとの連携を強化し、合同イベントや地域交流会への参加を計画的に実施します 。地域社会との接点を増やすことで、子どもたちの社会性を育む機会を創出します。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6		地域の児童発達支援センターや児童館、近隣の放課後児童クラブとの連携を強化し、合同イベントや地域交流会への参加を計画的に実施します 。地域社会との接点を増やすことで、子どもたちの社会性を育む機会を創出します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7				
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	4		保護者の皆様が悩みや情報を共有できるよう、茶話会やペアレント・トレーニング等の研修会、保護者交流会を定期的に開催します。また、ご希望のあった「きょうだい」も参加できるイベントを企画し、家族全体を支える支援体制の構築に努めます。開催にあたっては、参加しやすい日程や形式を事前にアンケート等で確認し、より多くのご家族が交流できる環境を整えます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			支援終了後の当日中の振り返り（ミーティング）を短時間でも確実に行う体制を整え、その日の気づきやヒヤリハットを即時に共有します。また、朝礼等での事前共有を徹底し、急な変更が生じた際も全職員へ迅速に伝達できる連絡フローを構築することで、特定の職員に負担が偏らないようチーム全体で柔軟に動ける体制を目指します。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1		・共有が抜けてしまう時がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	3		虐待防止および身体拘束廃止に関する事業所内研修を定期的に開催し、職員の意識向上と専門知識の習得を徹底します。外部研修への参加も積極的に促し、常に最新のガイドラインに基づいた適切な支援を提供できる体制を維持します。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				